

アクセス方法
 <電車>
 JR「千葉駅」下車
 JR総武線・成田線「笹川駅」または「下総橋駅」下車
 (約1時間30分)

<車>
 東関東自動車道 佐原香取IC→国道356号線
 →東庄町 (約50分)

memo



小さな旅

～30年 こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 72

連綿と この手で
 ～千葉県 東庄町～

2012年11月4日(日)放送

小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>



千葉県は小かぶの生産が全国1位。東庄町は柏市に次ぐ産地です。品種改良の結果1年中収穫が行われ、京浜市場に出荷されます。小かぶは傷つきやすく、栽培にはじやりのない、やわらかい土が欠かせません。

やわらかな土が育む小かぶ

旅の見どころ 3

利根川の下流にある千葉県東庄（とうのしょう）町。江戸時代、利根川から江戸へ続く水運の拠点として栄えました。町には、当時から288年続くしょうゆ蔵があり、伝統を受け継ぐ親子が、季節ごとに移ろいゆく蔵の周りの自然も感じながら、大切に守ってきました。また、農業の歴史は古く、平安時代に切り開かれたという農地もあります。手入れの行き届いたやわらかな土で、特産の小かぶが収穫されます。故郷に息づく確かな暮らしを見つめる旅です。



江戸時代に東庄の産品として運ばれたもののひとつが「しょうゆ」です。多田庄兵衛さん・敬次郎さん親子は、288年続く蔵を守り、昔ながらの杉の桶(おけ)でしょうゆ造りをしていきます。蒸した大豆といた小麦に種麹(たねこうじ)を混ぜて作った麹(こうじ)と、海水の4倍の濃度の塩水を含わせ、1年かけてもろみを作ります。蔵にすむ酵母や乳酸菌といった微生物が桶の中に入り、もろみを熟成させます。命を感じながらしょうゆ造りに打ち込みます。

伝統受け継ぐしょうゆ蔵

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

利根川の水運で栄えた町

東庄町の笹川地区はかつて利根川を使い、江戸への水運が盛んでした。利根川に通じる運河が町の南から北に走り、この両岸にあった河岸(かし)では、海から運ばれてきた東北諸藩の年貢や、近隣の九十九里産の干しか(肥料)、米や酒といった産品が積まれました。時代とともに、水運は鉄道、そして陸運に代わり姿を消しましたが、町には水運がもたらした米・野菜作り、醸造などの産業がいまも残り、その面影を伝えています。

